



ぜんこくのうぎょうきょうどうくみ あいちゅうおうかい ちようしやう
全国農業協同組合中央会会長賞

大好きなお米を守る

みやざきけんみやこのじやうしりつやまのくち
宮崎県都城市立山之口中学校三年

うわ たく じゆう すけ
上徳 修資

僕の祖父母は、農業をしています。だからお米はいつも祖父母の作ったものを食べています。そのお米で炊いたご飯は、とてももちもちしていて、ほんのり甘味のあるご飯です。僕の家では朝炊いた四合のご飯が夕方には、もう少ししかないことがたびたびあります。僕は、朝の炊き立てのお米に松前漬けや明太子をのせて食べるのが最高に好きです。

また、僕は小学四年生から中学三年生まで野球をしていましたが、試合と試合の合間の軽食は、大抵母の握ったおにぎりでした。食べやすく、すぐにお腹が膨れるおにぎりは試合の日の必需品でした。

僕は時々、自分でご飯を炊きます。お米は、その研ぎ方次第で少し味が変わるので、僕なりに研ぎ方を工夫して炊きます。その工夫して炊いたご飯を食べた家族の「おいしい」という声を聞くと、とても嬉しくなります。

そんなおいしいお米ですが、祖父母が高齢になるにつれ、米作りが難しくなってきました。日本は今、農業に従事する人が減少傾向にあるそうです。実際に、僕の住んでいる山之口町には、田んぼや畑は沢山ありますが、学校の友達に聞いてみても、農業による収入だけで生活している家は少ないようです。

僕は、小学五年生の時、総合的な学習の時間に手作業による米作りを体験しました。収穫祭ではできたもち米を杵でついてきな粉やあんこをつけて食べました。お餅ってこんなにおいしいんだと感動したのを覚えています。

一方でお米を収穫するまでにはとても手間がかかり、機械を使わない

と大変な重労働だということも分かりました。こんな大変な作業を職業としてやろうと思う人は少ないだろうし、農業だけで生計を立てるのは難しそうですね。農家が少なくなるのは仕方がないとも思います。

しかし、そうなる日本は、米作りはどうなっていくのだろうか不安になります。中学校の社会科や進路の学習で日本の産業や仕事について学ぶと、食料自給率はこれから更に低くなっていき、食べ物や食料品も大きな問題となつていきます。こうした「食」や「農業」に関する問題は、世界が目指している持続可能な社会を作る上でも、みんな考えなければならぬ問題だとも思います。

僕の好きなお米は、多くの人がおいしく生産しやすいものに改良した努力の産物だとも思います。また、弥生時代から受け継いできた米作りの伝統、祖父母が行ってきた農業を次の世代に受け継いでいかなければならないとも思います。

そのためにも、日本の米の美味しさを外国に知ってもらうような活動や各地域の名産品となるお米のブランド化を更に進めていくことが重要だとも思います。また今は、AIを搭載した無人のトラクターも開発されていると聞きます。僕の父も土日は祖父母の畑をトラクターで耕しに行きます。近い将来には、自動操縦のトラクターやドローンなどを使った水田の管理などができるようになると重労働の作業も少なくなり、農業をやってみようと思える人も増えるのではないかと考えます。

僕は、中学校を卒業したら農業高校に進学すると決めています。農業に関する知識を高め、高齢者と支え合つて共に活動できる農業、特に日本人がこれまで主食としてきた米の栽培や美味しさをもっと広めていきたいとも思います。祖父母が真心込めて育てたお米で作った美味しいおにぎり。僕のおにぎりの中には祖父母の働いている姿と笑顔がいっぱい詰まっています。だからこの日本の米の味、美味しさを僕より後の世代にも伝えていきたいです。将来は、僕も自分の育てたお米を家族や親せきに食べさせてあげられるようになりたいとも思います。